

第2章 食育推進計画

めざす姿

いっしょに食べよう 心も体もおいしい食事

コミュニケーションを大切にし、心にも体にも健康的でおいしい食事がとれるように、みんなで取り組んでいきます。

重点的取り組み

食育推進計画では2つの重点的な取り組みを行います。

重点的取り組み1

生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進

ライフステージに応じた望ましい食事がとれるよう、新たにスーパーマーケットなどの販売店での啓発を行うとともに、ホームページやSNSなどを活用した啓発を拡充します。

事業計画：食育に関する情報の新規啓発数

現状値（平成31年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
2回	3回	3回	3回	3回	3回

重点的取り組み2

まちをあげた食育推進の取り組み

市民が自然に健康になれる食環境づくりの推進として、健康的な食に関する情報やメニューなどを提供するしろい食育サポート店の登録促進を行います。

事業計画：しろい食育サポート店の登録店舗数

現状値（平成31年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
17店舗	23店舗	26店舗	29店舗	32店舗	35店舗

1. 食と健康づくりの推進

(1) 生涯にわたるライフステージに応じた食育の推進

【健康課題からみえた市の取り組み】

1日に主食・主菜・副菜の3つを揃えて食べる回数が2回以上の成人は59.6%で、平成26年度調査よりも低下しています。

苦手な食べ物（野菜等）でも食べられる小学生は44.1%、中学生は39.1%で、平成28・29年度調査より低下傾向にあります。また、厚生労働省の野菜摂取目標量である1日5皿以上食べる高校生は8.5%、成人は平成26年度調査と変わらず9.7%と低い状況にあり、ライフステージ全般において、野菜摂取に関する課題が見受けられました。

引き続き、子どもから大人まで、主食・主菜・副菜を揃えたバランスのよい食事を心がけ、特に野菜を食べることの大切さや具体的な方法について伝えていく必要があります。

また、多発する自然災害に備え、非常時でも自分に合った食生活を維持して健康を保てるよう、食の啓発を行います。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
1日に主食・主菜・副菜の3つを揃えて食べる回数が2回以上の割合の増加（高校生・20歳以上）	高校生 76.3% 成人 59.6%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	高校生 80%以上 成人 70%以上	7年度
苦手な食べ物（野菜等）でも食べられる子どもの割合の増加（小学生・中学生）	小学生 44.1% 中学生 39.1%	30年度 31年度	白井市食育評価アンケート	小学生 50%以上 中学生 45%以上	7年度
1日に野菜料理を5皿以上食べる人の割合の増加（20歳以上）	9.7%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	15%以上	7年度
3食必ず食べることに気を付けている人の割合の増加（30歳代～40歳代）	63.1%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	65%以上	7年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	販売店やイベント、広報、SNSなどを活用して、ライフステージに応じた望ましい食事がとれるよう啓発します。 保育園や学校などにおいて、子どもの頃からバランスよく食べる必要性について啓発します。 災害時にも健康を維持できるような食生活について啓発します。	○健康課 ○保育課 ○教育支援課 ○危機管理課	○食生活改善推進員協議会
食育事業	乳幼児・小中学生やその保護者に、朝昼夕の3食をしっかりと食べ、生活リズムを整えることを伝えます。 青年期や成人期では、それぞれの世代に応じた食育の実践を促す事業を実施します。	○健康課 ○企画政策課 ○高齢者福祉課 ○保育課 ○教育支援課	○食生活改善推進員協議会 ○市民団体
給食事業	保育園給食や学校給食において、子どもが食べやすい野菜メニューを取り入れ、バランスのよい給食を提供します。	○保育課 ○教育支援課	
相談事業	乳幼児健康診査や健康相談、児童館などにおいて、食に関する心配ごとの相談を行い、食生活が気になる人に対してバランスよく食べるための支援をします。	○健康課	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	●生活リズムを整え、成長発達に応じたバランスのよい食事ができるようにしよう。
青年期	●生活リズムを整え、野菜を食べることの大切さとバランスのよい食生活について理解し、実践しよう。
成人期	●自身や家族のために野菜を取り入れたバランスのよい食生活について理解し、実践しよう。 ●大規模災害用に個人に合った備蓄食料等を備え、平常時から定期的に活用しよう。
高齢期	●バランスのよい食生活を理解し、個人に合った食べ方を実践しよう。 ●大規模災害用に個人に合った備蓄食料等を備え、平常時から定期的に活用しよう。

(2) 食育による生活習慣病の予防及び改善

【健康課題からみえた市の取り組み】

よく噛んで食べる小学生が58.6%、中学生が53.9%、高校生が48.6%、成人が46.5%でした。また、ほぼ毎日おやつを食べている小学生は81.2%で、その内容は、エネルギーや食塩が多いスナック菓子や、糖質が多い甘い菓子や飲み物が多い結果となりました。

高校生や成人では、減塩や薄味に気をつけている高校生が27.7%で、成人も56.6%と平成26年度調査よりも減少しました。外食のメニューや食品を選ぶ際、栄養成分表示を確認する高校生が19.1%、成人も30.8%と低い現状です。また、成人の肥満者の割合は24.3%と増加傾向にあります。

生涯健康的な生活を送るために、子どもの頃からよく噛んで食べることや、食塩や脂肪、糖質などを摂りすぎないように食品を選択する力を身に付け、適正体重を維持して生活習慣病の予防につながるよう取り組みを行います。

高齢者については、低栄養傾向（BMI 20.0以下）が14.2%で、平成26年度調査よりも減少していますが、高齢者の健康状態の維持・改善のために、フレイル予防や疾病予防の取り組みを行う必要があります。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
よく噛んで食べている子どもの割合の増加（小学生・中学生）	小学生 58.6%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	小学生 70%以上	7年度
	中学生 53.9%		白井市食育評価アンケート	中学生 60%以上	
BMI値が25以上（肥満）の人の割合の減少（20歳以上）※	男性 31.7% 女性 17.7%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	男性 28%以下 女性 15%以下	7年度
減塩や薄味を心がけている人の割合の増加（20歳以上）	56.6%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	65%以上	7年度

※このめざそう値は、健康増進計画のめざそう値としての位置づけもあります。

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	広報やホームページ、給食だより、健(検)診会場などにおいて、さまざまな年代を対象に、生活習慣予防のための食品や間食の選び方、栄養成分表示の活用法について啓発します。	○健康課 ○保育課 ○教育支援課	○食生活改善推進員協議会
食育事業	乳幼児から学齢期では、よく噛んで食べることの大切さや、適切なおやつを選び方などの支援を行います。 成人期では、生活習慣病を予防するため、よく噛んで食べることや、食塩や脂肪、糖質の摂りすぎに注意し、適正体重の維持につながるよう伝えます。 高齢期では、フレイル予防の食事について伝えます。	○健康課 ○高齢者福祉課 ○保育課 ○教育支援課	○食生活改善推進協議会
給食事業	保育園給食や学校給食において、噛みごたえのある食材を使用した献立を提供し、よく噛んで食べる習慣を促します。	○保育課 ○教育支援課	
特定保健指導事業	生活習慣病のリスクが高い人を対象に、生活習慣を改善するため、個別面接や集団教室などを行い、適正な体重を維持できるよう支援します。	○健康課	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	●成長発達に応じ、さまざまな食品を食べ慣れることで偏りなく、よく噛んで食べられるようにしましょう。
青年期	●よく噛んで食べるようにしましょう。 ●自分の体と食生活のかかわりについて理解し、適切な食事や間食のとり方を実践しよう。
成人期	●ゆっくりよく噛んで食べることによって食べ過ぎを防ぎ、適正体重を維持できるようにしよう。 ●栄養成分表示を活用し、食塩・脂肪・糖質のとりすぎに注意した健康的な食生活について理解し、実践しよう。
高齢期	●ゆっくりよく噛むことを心がけて食事をしよう。 ●自らの健康を意識しながら、個人に合った食生活を実践しよう。 ●フレイル予防のため、たんぱく質を多く含む食品など、多様な食品を組み合わせた食事をしよう。

2. 食を通じたコミュニケーション

(1) 食を通じたコミュニケーションの推進

【健康課題からみえた市の取り組み】

成人で家族と一緒に食事をする回数は、朝食に比べて夕食の方が多く、家族と一緒に夕食をとる日数が週3日以内の人は20.7%でした。家庭で食事の手伝いをあまりしていない小学生が49.8%、中学生が34.7%います。料理をすることができない高校生は50.3%でした。また、日本食や地域の伝統的な料理を食べる高校生が33.3%、成人が43.5%でした。

家族と一緒に食べることや、家庭で子どもが食事の準備に係る経験は、食への関心を高め、食事のマナーや伝統的な食文化を伝える機会になります。忙しい日々にもできるだけ家族や仲間と一緒に食事や食に関わる経験ができるよう、引き続き共食や食事の手伝い、伝統的な食文化の継承の大切さについて伝えていきます。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
家族と一緒に食事をする回数の増加 (20歳以上) [朝食+夕食]*	週9.3回	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	週10回以上	7年度
食事の手伝いをいつも、時々している子どもの割合の増加 (小学生)	49.4%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	60%以上	7年度
日本食や地域の伝統的な料理を食べる人の割合の増加 (20歳以上)	43.5%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	50%以上	7年度

*共食の回数は「ほとんど毎日食べる」を週7回、「週に4～5日食べる」を4.5回、「週に2～3回食べる」を2.5回、「週に1回程度食べる」を1回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を算出しています。

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	広報やホームページ、各種料理教室などにおいて、家族や仲間と一緒に食事を楽しむことの重要性や日本食や地域の伝統的な料理について啓発します。 保育園や学校などにおいて、家族や仲間と一緒に食事をすることや、家庭での食事の手伝い、食に関わる経験をすることの大切さについて啓発します。	○健康課 ○保育課 ○教育支援課	○食生活改善推進協議会

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食育事業	<p>保育園や学校などの食育活動において、箸の持ち方や食事のマナー、日本型食生活の良さや四季折々の行事食などの食文化を伝えます。</p> <p>みそ作り体験教室などを通して、日本型食生活の良さや食文化を伝えます。</p> <p>給食施設の見学を通して、食への関心を高める機会をつくります。</p>	<p>○健康課</p> <p>○産業振興課</p> <p>○保育課</p> <p>○教育支援課</p>	○白井市農産物加工研究会
給食事業	<p>保育園給食や学校給食の場において、友達や先生と一緒に食べることの楽しさを知り、マナーを身につけることにつなげます。</p> <p>また、四季折々の行事食を提供することにより日本の食文化を伝えます。</p>	<p>○保育課</p> <p>○教育支援課</p>	

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ●家族や仲間と一緒に食べることの楽しさを実感しよう。 ●食事の前後で「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶の習慣をつけよう。
青年期	<ul style="list-style-type: none"> ●家族や仲間と一緒に食べることの楽しさを実感し、食事の準備などの手伝いや料理に携わり、食への関心を高めよう。 ●食事の前後で「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をすることで、食への感謝の気持ちを表そう。 ●日本食に親しみをもち、日本の食文化や季節感を味わおう。
成人期 高齢期	<ul style="list-style-type: none"> ●共食の意味を理解し、家族や仲間と一緒に食事をする機会を増やそう。 ●家庭の食事に行事食を取り入れ、日本の食文化や季節感を味わおう。 ●日本食や地域の伝統的な食文化を大切にし、次世代に伝えよう。

(2) 食の循環や環境を意識した食育の推進

【健康課題からみえた市の取り組み】

農産物を購入する時に、千葉県産または白井産を選ぶ人が29.7%と、平成26年度調査より低下していました。市民が安全で新鮮な旬の地元農産物を購入できるように、地域における農産物販売所づくりを推進し、地産地消応援店舗やしろいの直売所マップなどのさらなる周知を行います。

野菜を育てたり収穫することに興味がある小学生が67.7%と、平成26年度調査より低下していました。農産物への関心を持つことは、生産者や食への感謝の気持ちを育むことや、食べ物を残したときにもったいないと感じることにつながることから、引き続き、学校給食での地元農産物の利用や保育園での栽培体験などの取り組みを行います。

食品ロスの削減に気をつけている高校生は62.1%、成人は76.5%でした。食料の生産から消費までの一連の食の循環を意識しながら、食品ロスの削減など環境に配慮した取り組みを行います。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
農作物を購入時、千葉県産、または白井産を選ぶ割合の増加（20歳以上）	29.7%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	45%以上	7年度
学校給食への地元農産物の利用品目数の維持	14品目	31年度	教育支援課の調査	14品目以上	7年度
食事を残したときに「もったいない」と思う子どもの割合の増加（小学生・中学生）	小学生 89.1% ----- 中学生 88.7%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査 白井市食育評価アンケート	93%以上	7年度
食品ロスの削減を心がける人の割合の増加（20歳以上）	76.5%	31年度	白井市民の「健康」に関するアンケート調査	80%以上	7年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	市民が地元農産物を購入できるよう、しろいの直売所マップや、JA西印旛農産物直売組合白井支部と協力し、白井産農産物の周知啓発を行います。 市ホームページで白井産農産物のレシピを紹介し、地産地消の推進を啓発します。	○健康課 ○産業振興課	○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく） ○白井市農産物加工研究会

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食育事業	各種料理教室や食育講座において、旬の地元農産物の活用を啓発するとともに、生産者や食への感謝の心について伝えます。 保育園や学校において、野菜などの栽培体験を行うことにより、野菜を育てたり収穫することに興味・関心を持つ気持ちを育てます。 ごみ減量講座や通学合宿ごみ減量授業などにおいて、食品ロスの削減について伝えます。	○健康課 ○環境課	○食生活改善推進員協議会
給食事業	保育園給食や学校給食において、子どもに安全で新鮮な地元農産物を提供し、子どもや保護者へ地元農産物の紹介をします。 給食を通じて、食への感謝の気持ちを育みます。	○産業振興課 ○保育課 ○教育支援課	○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく）
地産地消の支援	JA西印旛農産物直売組合白井支部のイベントの開催や移動販売車による野菜の販売、白井市農産物加工研究会の教室開催、市民農園の開設支援、商業施設の誘致などにより、地産地消を推進します。	○産業振興課	○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく） ○白井市農産物加工研究会

【関係機関への提案】

事業所など	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントの開催や体験教室などを通して農産物の紹介や地産地消の推進に努めます。 ● 食品の製造から廃棄に至るまでの過程を見直し、食品ロスの削減に努めます。
-------	---

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期 青年期	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元の農業や農産物について関心を持つ。 ● 生産者をはじめ、多くの関係者により食が支えられていることを理解し、食への感謝と「もったいない」と思う気持ちを育もう。
成人期 高齢期	<ul style="list-style-type: none"> ● 千葉県や白井の農産物について関心を持ち、なるべく地元農産物を購入しよう。 ● 地域で行われる農業体験や食育に関するイベントなどに積極的に参加しよう。 ● 食品ロスが環境へ大きな負担をかけていることを理解し、食べ物を購入・調理するときや食事のときは、食品ロスの削減に努めよう。

3. 食育を推進するための食環境の整備

(1) 食育に関わる人材育成とネットワークづくり

【健康課題からみえた市の取り組み】

食育という言葉の意味を知っている人が69.3%と、平成26年度調査より増加しています。食育を推進するために、食育に関わる人を増やしていく必要があることから、引き続き食生活改善推進員の養成や各種料理教室やイベント、保育園や幼稚園での食育活動を継続していく必要があります。

また、地域における食育を推進するため、食品関連事業者、農業関係者、子ども食堂など、食育に関わる多様な関係団体との連携について検討する必要があります。

【現状値及びめざそう値】

目標項目	現状値			めざそう値	
	数値	測定年度	現状値の出所	数値	測定年度の目安
食育について連携する関係団体・機関の数の増加	6団体	31年度	白井市健康課等実績	9団体	7年度

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食生活改善推進員活動事業	食に関わる人を増やすために、食生活改善推進員を養成します。また、食生活改善推進員が、各種料理教室や食育講座、イベント、保育園や幼稚園での食育支援など、子どもから大人まで幅広い市民を対象に食育を推進します。	○健康課	
栄養士連絡会	健康課、保育園、学校の栄養士が連携し、食育を推進するための情報交換や取り組みの考案を行います。	○健康課 ○保育課 ○教育支援課	○印旛健康福祉センター ○印旛農業事務所
他職種との連携	さまざまな場面で食育を推進するために、保育士や保健師、看護師、歯科衛生士、介護や教育関係者などのさまざまな専門職との連携を行います。	○健康課 ○高齢者福祉課 ○障害福祉課 ○保育課 ○教育支援課	○自立支援型地域ケア会議 ○学校保健会
関係団体・機関との連携	食品関連事業者、農業関係者、子ども食堂など、食育に関わる多様な関係者との連携の検討や取り組みを行います。	○健康課 ○産業振興課 ○子育て支援課 ○保育課 ○教育支援課	○食品衛生組合 ○JA 西印旛農産物直売組合白井支部（やおばあく） ○子ども食堂

【関係機関への提案】

関係団体・機関
など

●市やさまざまな連携を通して、食育活動を積極的に推進します。

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期
青年期
成人期
高齢期

●食に関心を持ち、食育について理解し、市などが実施する食育活動に積極的に参加しよう。

(2) まちをあげた食育推進の取り組み

【健康課題からみえた市の取り組み】

平成31年から新たに食に関するポスターの設置や野菜たっぷりメニューの提供などを行う「しろい食育サポート店」事業を実施しました。

市民が自然に健康になれる食環境づくりとして、健康的な食に関する情報やメニュー等の提供に取り組む店舗数を増やすことが重要であることから、引き続きしろい食育サポート店の登録の促進と市民への周知を行います。

また、健康な食生活の実現にあたっては、食品の選び方や適切な調理・保存の方法など食の安全性について基礎的な知識を持ち、行動することが大切です。食の安全性について、地域の飲食店などの関係機関とともに普及啓発を推進します。

【主な取り組み事業】

事業名	事業の概要	担当課	関係機関
食の啓発事業	健康的な食に関する情報を各センターなどに設置し、普及啓発します。広報やホームページなどで、家庭での食中毒予防など、食の安全について啓発します。	○健康課	○食品衛生組合 ○食生活改善推進員協議会 ○市民団体
食の安全への取り組み	保育園給食や学校給食では安全な食材を使用し、食中毒の予防に努めます。食品衛生組合は、食中毒予防の広報活動や食品衛生講習会に参加し、食の安全に努めていきます。	○健康課 ○保育課 ○教育支援課	○食品衛生組合 ○印旛健康福祉センター
食の環境整備	健康的な食に関する取り組みを行うしろい食育サポート店や、白井産農産物の販売等を行う地産地消応援店舗の周知・登録の促進を行い、市内店舗での食育や地産地消の推進を行います。	○健康課 ○産業振興課	○しろい食育サポート店 ○地産地消応援店舗

【関係機関への提案】

飲食店や商店	<ul style="list-style-type: none"> ●健康的なメニューを取り入れます。 ●食品の安全性の確保を行います。
しろい食育サポート店	<ul style="list-style-type: none"> ●市が提供する食生活に関する情報資料等を店舗に設置し、食育に関する啓発に協力します。 ●健康的なメニューの提供やヘルシーオーダーに対応し、まちをあげた食育の推進に協力します。
地産地消応援店舗	<ul style="list-style-type: none"> ●白井産農産物の販売や白井産農産物を使ったメニューを提供し、地産地消の推進に協力します。

【市民の皆様への提案～こんなことからやってみよう！】

乳幼児期 青年期	●食に興味を持ち、大切にしよう。
成人期 高齢期	●食に関する正しい情報を取り入れよう。 ●食の安全と安心の確保について、自ら学び、理解を深め食生活に取り入れよう。

コラム しろい食育サポート店

平成 31 年 4 月から、食育推進計画に基づく「食育を推進するための食環境整備」として、健康的な食に関する取り組みを行う飲食店や販売店を「しろい食育サポート店」として登録する事業がスタートしました。

しろい食育サポート店は、食に関するポスターやリーフレットなどの設置や、野菜たっぷりメニューの提供、ごはんや油の量を控えるヘルシーオーダーへの対応を行うなど、市民の健康的な食生活をサポートする市内のお店です。



<しろい食育サポート店の取り組み>

以下の健康づくりの取り組み①～⑥のうち、2つ以上を行っています。

A	食育に関する資料の設置		①市が提供する食生活に関する情報資料などを店舗に設置できる ・ポスター、リーフレットなど
B	野菜たっぷりメニューの提供		②野菜使用量が1食120g以上又は単品70g以上のものを提供できる
C	ヘルシーオーダーへの対応		③エネルギーが気になる人への対応 ・ごはん、めん類など主食の量を控えめにできる ・肉、魚料理など主菜のハーフサイズや小盛りメニューがある
			④脂質が気になる人への対応 ・料理に使う油の量を控えめにできる ・マヨネーズ、ドレッシングなどを別添えにできる ・ノンオイル調味料を用意できる
			⑤塩分が気になる人への対応 ・料理の味付けを薄味にできる ・減塩の調味料を用意できる
			⑥噛む力が弱く食べにくい人への対応 ・包丁目を入れたり、やわらかく煮るなど、食べやすいように調理できる

◎食育推進計画事業一覧◎

※「○」は具体的取り組みに該当する事業で、そのうち「●」については重点的に取り組む事業です。

No	【主な取り組み事業】 事業名	該当する事業	具体的取り組み					
			1-(1)	1-(2)	2-(1)	2-(2)	3-(1)	3-(2)
			推進 生涯にわたるライフス テージに応じた食育の	食育による生活習慣病 の予防及び改善	食を通じたコミュニ ケーションの推進	食の循環や環境を意識 した食育の推進	食育に関わる人材育成 とネットワークづくり	まちをあげた食育推進 の取り組み
1	食の啓発事業	食育情報の発信 重点的取り組み1	●	○	○	○		○
2		おすすめレシピ啓発事業	○					
3		保育園での食育啓発	○		○	○		
4		学校での食育啓発	○		○	○		
5		各種料理等の教室事業			○			
6		市HPによる白井産農産物のレ シピ				○		
7	食育事業	4か月育児相談事業	○					
8		幼児健康診査（1歳6か月児健 康診査、3歳児健康診査）	○	○				
9		かみかみ教室	○	○				
10		プレ☆パパママスクール	○					
11		生活習慣病予防教室		○				
12		各種料理等の教室事業	○	○		○		
13		食に関する市民向け講座 （なるほど行政講座など）	○		○			
14		保育園での食育推進事業	○	○		○		
15		栄養指導の充実事業	○	○				
16		給食施設や学校での食育推進事業	○	○		○		
17		栄養・歯科口腔に関する高齢者 向け講座	○					
18		道の場における介護予防講座	○					
19		食品ロスの削減に関する講座				○		
20	給食事業	保育園給食事業	○	○	○	○		
21		学校給食事業	○	○	○	○		
22	相談事業	4か月育児相談事業、かみかみ 教室	○					
23		幼児歯科健康診査事業 （2歳児）	○					
24		幼児健康診査事業（1歳6か月児 健康診査、3歳児健康診査）	○					
25		健康相談事業	○					
26	特定保健指導事業		○					
27	地産地消の支 援	地産地消応援店舗事業				○		
28		しろいの直売所マップ啓発事 業				○		
29		地域における農産物販売所つ くり				○		
30		白井市農産物加工研究会への 支援				○		
31		市民農園開設の支援						
32		JA西印旛農産物直売組合白井 支部への支援				○		
33	食生活改善推 進員活動事業	食生活改善推進員活動事業					○	
34		食生活改善推進員養成事業					○	
35	栄養士連絡会	栄養士連絡会					○	
36	他職種との連携	他職種との連携					○	
37	関係団体・機 関との連携	関係団体・機関との連携					○	
38	食環境整備	しろい食育サポート店事業 重点的取り組み2						●
39	食の安全への 取り組み	食品衛生管理の普及啓発事業						○
40		食の安全への取り組み						○
41		保育園給食事業						○
42		学校給食事業						○